

勝山駅前広場のデザイン決定

大正ロマン漂う駅空間

勝山駅前広場の整備内容について、具体的なデザインが決定し、交通事業者や各種団体などで構成された勝山駅周辺整備連絡協議会において承認されました。

勝山駅前にはこれまでなかったロータリーを整備して、交通結節点としての機能強化を図り、合わせて勝山市の鉄道玄関口にふさわしい魅力的な環境整備を行っていきます。

☎ 都市政策課 ☎ 88・8108

平成22年度工事着手 平成24年度完成予定

勝山駅前整備計画の原案については、平成18年3月に勝山駅前広場等検討委員会において整備構想がまとめられ、それを受けて、福井県への要望活動や市民への公表、地元説明会など、事業化に向けて取り組んできました。平成20年度からは、福井県によりロータリー部の事業が着手され、平成21年度においては、地権者のかたがたのご協力により用地補償契約が全て完了

しました。平成22年度からはいよいよ工事に着手し、3か年で完成する予定です。

整備デザインについては、平成18年の整備構想を基本に詳細設計を行い、勝山駅周辺整備連絡協議会において意見をいただきながら、まとめられました。

※ただし、国の補助制度の見直しにより、県と市が現在採択を受けている補助制度も見直しが見込まれており、今後の動向を見極めながら事業を進めていきます。

駅前広場に日本最古の電気機関車と貨車を展示

勝山市が、えちぜん鉄道から譲り受ける予定の電気機関車テキ6と貨車ト68を、勝山駅前広場に動く状態で展示します。テキ6は貨車を牽引し、奥越地域に多くの物資を輸送して地域の発展に貢献してきました。

動態可能な電気機関車としては、日本最古のもので貴重な産業遺産です。

広場整備に合わせて

勝山駅舎の改修も国に要望

広場整備に合わせて、駅舎の改修も計画しています。

国の登録有形文化財に指定されている勝山駅舎は大正3年に建てられ、これまで補修されながら使われてきました。しかし、耐震改修や大規模な修繕が必要となっています。

改修にあたっては、建物の外観を建設当時の形態に復元し、建物内部には、現在駅舎の前にあるトイレを駅舎の中に取り込むことや、えちぜん鉄道（旧京福電鉄）の歴史を物語る物品などを展示する電車資料スペースを駅舎内に設け、テキ6の展示と合わせて、電車博物館的な駅空間としての整備を検討しています。

今後、平成22年度において国の採択を目指していきます。



(上) 動態展示されるテキ6
(下) テキ6の展示施設と休憩スペース

勝山駅前広場の整備目的

勝山駅前にはこれまでなかったロータリーを整備し、交通結節点としての機能強化を図り、合わせて勝山市の鉄道玄関口にふさわしい魅力的な環境整備を目的とします。

勝山駅周辺整備のテーマ

「歴史・文化の趣をとどめる“かつやまロマン”」
北陸初の電気鉄道（大正3年 京都電灯）、往時の姿を残す勝山駅舎（国の登録有形文化財）、当時の生活感やノスタルジーを感じる、大正ロマンの趣が漂う電車博物館的な駅空間づくり。

整備概要

- ・広場面積2450㎡（内ロータリー部分 1450㎡）
- ・バス乗り場3か所
- ・タクシー乗り場1か所（客待ちプール2台）
- ・一般車用スペース3台（迎え用車の駐車スペースは駅西側に確保）
- ・休憩施設と鉄道モニュメント（電気機関車テキ6と貨車ト68）設置
- ・ロータリー部分に無散水融雪設備を設置（隣接する工場の温排水活用）
- ・景観に配慮し無電柱化を実施

総事業費

国の補助金を利用し、県と市の事業費を合わせて、約5億円
県事業費2億8,000万円、市事業費2億2,000万円
（駅西側の公園整備や駅舎改修も見込んでいます）



建築当初の趣を残す勝山駅舎



(上) バス乗り場付近から見た休憩施設とテキ6
(右) 目線の高さから見た勝山駅前広場

